漢字から文章へ 第一冊

第十回

言葉を整える

取材の記事が、すっきり読みやすくなりました。
けれど、話した人は少し首をかしげています。

知っている字や、気になる字を探してみましょう。

今日の中心漢字

述	訳	訂	削
言葉でのべる	言葉を移す わけ	誤りなどを直す	けずり取る

詞	句	諭	謄
ことば	まとまったことば	分かるように話す	そのまま写す

いっしょに覚える漢字

文	字	名	題	書	話
声	音	答	問	説	表

この回で読むお話

時計屋のたぶん

字や言葉を確かめたあとで、お話を読みます。

一　今日の中心漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
述	ジュツ のべる	考えや内容を言葉で示す 記述・陳述・前述	詞	シ	ことば／言葉の種類 名詞・動詞・歌詞
訳	ヤク わけ	別の言語で伝える／事情 翻訳・通訳・訳語	句	ク	ひとまとまりの言葉 語句・句点・俳句
訂	テイ	誤りなどを直す 訂正・改訂・校訂	諭	ユ さとす	分かるように言い聞かせる 説諭・教諭・諭す
削	サク けずる	けずる／部分を除く 削除・削減・添削	謄	トウ	原本の内容を書き写す 謄写・謄本

二　いっしょに覚える漢字

字	主な読み	意味の手がかりと熟語	字	主な読み	意味の手がかりと熟語
文	ブン ふみ	書き表した言葉 文章・本文・作文	声	セイ こえ	人や動物が出す音 音声・声量・発声
字	ジ	文字／書いたしるし 文字・漢字・字形	音	オン おと	耳に聞こえるもの 音読・発音・音声
名	メイ な	ものや人の呼び名 名称・題名・名詞	答	トウ こたえる	問いにこたえる 答案・解答・応答
題	ダイ	表題／取り組む問題 題名・問題・課題	問	モン とう	たずねる／確かめる 質問・疑問・問題
書	ショ かく	書く／書いたもの 書写・読書・文書	説	セツ とく	分かるようにのべる 説明・説得・小説
話	ワ はなす	言葉で伝え合う 会話・話題・対話	表	ヒョウ あらわす	外に示す／おもて 表現・発表・表面

表の読みは、この回で使う主なものです。意味の芯は、熟語全体の意味を確かめる手がかりにしましょう。

進め方　表を見ながら解いてかまいません。
答えを確かめたあと、迷った語を表へ戻って読み直しましょう。

三　漢字の働きを考えよう

最も適切なものを一つずつ選びなさい。

(1)「記述・陳述」の「述」に共通する働きはどれですか。
ア　言葉で内容を示す　　イ　原本どおりに写す
ウ　言葉を削り取る　　エ　言葉の種類を分ける

(2)「翻訳」と「通訳」に共通する働きはどれですか。
ア　同じ内容を必ず短くする　　イ　漢字をひらがなにする
ウ　意味を別の言語で伝える　　エ　発音を大きくする

(3)「訂正」と「改訂」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は写すこと、後者は削ること　　イ　前者は誤りを直し、後者は内容などを改める
ウ　どちらも、声だけを変えること　　エ　どちらも、元の文を必ず捨てること

(4)「削除」と「削減」の違いとして適切なものはどれですか。
ア　前者は増やし、後者は写す　　イ　前者は読むこと、後者は書くこと
ウ　どちらも、理由を説明すること　　エ　前者は取り除き、後者は量を減らす

(5)「歌詞」と「語句」の説明として適切なものはどれですか。
ア　前者は音の高さ、後者は声量　　イ　どちらも、文字の数だけを指す
ウ　前者は歌の言葉、後者は語や句　　エ　どちらも、題名だけを指す

(6)「謄本」とは、どんな文書ですか。
ア　原本の内容を全部写した文書　　イ　原本の要点だけを選んだ文書
ウ　原本と反対の意見を書いた文書　　エ　外国語に訳した文書

四　熟語を広げよう

文に合う語を語群から選び、「解答」欄に書きなさい。各語は一度ずつ使います。

語群　謄本　題名　誤字　音声　書写　語句　記述
表記　説諭　話題　訳語　名詞　答案　削除

文	解答	文	解答
(1) 観察した事実を、ノートに□□した。		(8) 原本の全文を写した□□と、原本を照合した。	
(2) 外国語の言葉に合う日本語の□□を考えた。		(9) 作品の表紙に、内容を表す□□を大きく掲げた。	
(3) 印刷前に文字を確かめ、□□を見つけて直した。		(10) 字の形や筆づかいを見て、手本の詩を□□した。	
(4) 不要な一文を、文書から□□した。		(11) 新聞の記事が、朝の会話の□□になった。	
(5)「机」「時」は、ものや事柄を表す□□だ。		(12) 文字だけでなく、録音した□□でも伝えた。	
(6) 分かりにくい□□に線を引き、言い換えを考えた。		(13) 試験の終了後、記入した□□を提出した。	
(7) 危険な行動をした生徒を、先生が落ち着いて□□した。		(14) 同じ地名の漢字と仮名の□□を、一覧で確認した。	

五　似た語を使い分けよう

（1）〜（4）は最も適切なものを選び、（5）（6）は自分で一文を書きなさい。

（1）「記述」と「説明」は、この文でどう関わっていますか。

観察結果を記述し、その結果になった理由も文章で説明した。

ア　書いた結果が理由の説明を支えている。
イ　説明は声でしかできないため、文はなかった。
ウ　記述したので、理由はすべて省かれた。
エ　二つの行為は、同時にはできない。

（2）A・B の行為に合う語の組合せを選びなさい。

A　案内の誤った時刻を正しい時刻に直した。
B　先生が、生徒の作文に語を加えたり削ったりした。

ア　A＝添削／B＝訂正　　イ　A＝削減／B＝翻訳
ウ　A＝訂正／B＝添削　　エ　A＝翻訳／B＝削減

（3）「削除」と「省略」の使い方に合う説明を選びなさい。

重なる一文を削除し、ここでは不要な途中の計算を省略して示した。

ア　削除した文は、必ず別の言語に訳された。
イ　文を取り除き、途中の計算は示さなかった。
ウ　省略した計算は、誤りだと確定した。
エ　削除も省略も、すべて書き足す意味だ。

（4）「題名」と「課題」を、この文ではどう捉え分けていますか。

作品の題名は決まったが、結末をどう書くかが課題として残った。

ア　作品は完成し、直す所はなくなった。
イ　題名も結末も、どちらも消した。
ウ　作品の名前は、まだ決まっていない。
エ　作品の名は決まり、取り組む問題は残った。

（5）「訂正」を使い、何の誤りをどう直したか、一文で書きなさい。（20〜40 字）

（6）「表現」を使い、伝える内容と方法が分かる一文を書きなさい。（20〜40 字）

六　短文で使ってみよう

A　カタカナを漢字に直しなさい

文	漢字
(1) 「走る」は、人の動作を表す**ドウシ**だ。	
(2) 会議では、外国語の発言を日本語に**ツウヤク**した。	
(3) 古い案内書の内容を見直し、**カイテイ**版を作った。	
(4) 使わない工程を省き、作業時間を**サクゲン**した。	
(5) 祖父の古い日記の全文を、保存用に**トウシャ**した。	
(6) 短い**ブンショウ**でも、主語と述語を確かめた。	
(7) 詩を声に出して**オンドク**し、調子を味わった。	
(8) 新しい施設の**メイショウ**を、公募で決めた。	
(9) 問題集で、計算の**カイトウ**と途中の式を確かめた。	
(10) 一つの**モンダイ**を、複数の方法で解いた。	
(11) 電車を待つ間に、少し**ドクショ**した。	
(12) 理由を丁寧に述べ、相手を**セットク**した。	
(13) 二人の**カイワ**を聞き、互いの考えを知った。	
(14) 調査した結果を、図も使って**ハッピョウ**した。	
(15) 五・七・五の音を基本に、**ハイク**を作った。	

B　熟語の読みを書きなさい

(16) 文字	(17) 質問	(18) 声量	(19) 句点	(20) 前述

この回を終えたら もう一度確かめる

短くした前後で、誰の考えか、どこまで確かなのかが変わっていないかを確かめましょう。

七　文章の中で考えよう

時計屋のたぶん

取材の録音を止めても、美月の耳には時計の音が残った。

学校新聞の記事を書くため、時計店を訪ねた。棚では大きな時計も小さな時計も動いているのに、入口の一台だけ針が止まっていた。美月が見ていると、店主は「それは、まだ預かったばかり」と言った。

「新しい時計を買わずに、古い時計を直すのはなぜですか。」
質問をすると、店主は少し考えた。「たぶん、昔の音を聞きたいんだと思う。持ち主全員に聞いたわけじゃないけれど。」修理の終わった時計を、耳に近づけた客がいたという。家族の部屋にあった物も、旅先で買った物も来る。見た目だけではなさそうだ、と述べた。

机には、先代の修理帳の謄写本があった。原本を傷めないよう、全文を書き写したものだ。品の名称と、預かった人の名が並ぶ。美月は許しを得て表紙を撮った。帳面の角には、何度も開いた跡がついていた。

学校で録音を聞き、題名を「古い時計を直す理由」とした。重なる語句を削除し、長い文を二つに分ける。間違えた開店年も訂正した。名詞が続く所を直すと、文字数も減り、読みやすくなった。ところが、店主に原稿を見せると、一文で手が止まった。

原稿の一文

店主は、客はみな昔の音を聞くために時計を直す、と話した。

「みんなの答えを知っているわけではないんだ。」

美月は迷いのある言い方を弱いと思い、「たぶん」「思う」を外していた。音声を戻すと、店主は自分の見た客の話をしている。その想像を、客全員に確かめた事実へ変えていた。

顧問の先生は「誰の考えを伝えるのか、確かめてごらん」と穏やかに諭した。説明を整えるうちに、確かさまで変えていたのだ。外国語に翻訳するとしても、その幅は勝手に消せない。美月は「みな」を外し、推測を示す表現を戻した。

最後に録音を聞くと、「たぶん」の前の短い間が気になった。店主は、時計を耳に寄せた客の顔を思い出していたのかもしれない。それは記事の事実には加えず、取材ノートへ書き留めた。写真には止まった入口の時計も写っていた。次に訪ねたら、あの音も聞けるだろうか。

七　文章の中で考えよう 問い

本文を根拠にして答えなさい。

（1）原本の全文を書き写した本を表す語を、本文から漢字三字で抜き出しなさい。

（2）ある言語の意味を別の言語で伝える「ホンヤク」を、漢字二字で書きなさい。

（3）本文の「訂正」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　言葉を必ず短くすること。
イ　誤っていた内容を正しく直すこと。
ウ　録音の音量を大きくすること。
エ　外国語を日本語へ移すこと。

（4）取材時の発言と原稿の違いとして、最も適切なものを選びなさい。

ア　原稿では、店主の推測が客全員の理由のようになった。
イ　原稿では、店主が昔の音を嫌うことになった。
ウ　取材時から、客全員への調査結果が示されていた。
エ　原稿は、店主の発言を一字も変えずに写していた。

（5）美月が「たぶん」「思う」を残そうと考えたのはなぜですか。店主の知っている範囲と結び、45〜55 字で説明しなさい。

（6）「原稿の一文」をどう直すとよいですか。修正例と理由を合わせて書きなさい。「表現」「話し手」を使い、全体を 70〜90 字にしなさい。

句読点も一字と数えます。灰色のマスには書きません。

解答と解説

第十回　言葉を整える

自分の答えと照らし合わせ、言葉を選ぶ根拠を確かめましょう。

三　漢字の働きを考えよう

（1）ア　考えや事実などを言葉で表す働き。「記述」は書き記すことに焦点がある。

（2）ウ　一つの言語で表された意味を、別の言語で伝えること。
字や音を置き換えるだけとは限らない。

（3）イ　「訂正」は誤りを正すこと。「改訂」は書物や文書などの内容を改めること。改訂の中で訂正を行うこともある。

（4）エ　「削除」は対象を取り除くこと。「削減」は量や数などを減らすこと。

（5）ウ　「詞」「句」はどちらも言葉に関わる。「語句」は語や句、ひとまとまりの言葉をいう。

（6）ア　「謄」は書き写す働き。「謄本」は原本の内容を全部そのまま写し取った文書をいう。

四　熟語を広げよう

（1）記述　（2）訳語　（3）誤字　（4）削除　（5）名詞
（6）語句　（7）説諭　（8）謄本　（9）題名　（10）書写
（11）話題　（12）音声　（13）答案　（14）表記

（3）「誤字」は誤った文字。（8）は原本の全文を写した「謄本」。（10）「書写」は字形や筆づかいにも注意して写すこと。（14）「表記」は、文字や記号で書き表すことや、その書き方。

五　似た語を使い分けよう

（1）ア　「記述」は書き表すこと、「説明」は相手に分かるように述べること。説明を文章で記述することもでき、二語は必ず別の作業になるわけではない。

（2）ウ　誤りを正すAには「訂正」、他の人の文章に加除などを行って直すBには「添削」が合う。添削では訂正も行われる。助言があることだけを二語の違いにはしない。

（3）イ　二語はともに部分を取り除いたり省いたりする場面で使い、意味が重なる。この文では、取り除く対象と示さない部分を具体的に読む。

（4）エ　「題名」は作品などの名前。「課題」は取り組むべき事柄や問題。題名を決めること自体が課題になる場合もある。

五　自分で書く問題

（5）解答例

案内にある開始時刻が違っていたので、九時から十時へ訂正した。

☆自分で確かめる点　誤っていた点と、正しく直した内容が伝わるか。

（6）解答例

祖母への感謝を、言葉だけでなく、一枚の絵でも表現した。

☆自分で確かめる点　伝える内容と、言葉・絵・音などの示し方が分かるか。

六　短文で使ってみよう

（1）動詞　（2）通訳　（3）改訂　（4）削減　（5）謄写
（6）文章　（7）音読　（8）名称　（9）解答　（10）問題
（11）読書　（12）説得　（13）会話　（14）発表　（15）俳句
（16）もじ　（17）しつもん　（18）せいりょう　（19）くてん　（20）ぜんじゅつ

（5）は書き写す「謄写」。（9）は問題を解いて答える「解答」。問い合わせに返事をする場合の「回答」と、文脈を確かめて捉え分ける。

七　文章の中で考えよう

（1）謄写本　「謄」は書き写すこと。本文では原本の全文を写したものと説明されている。

（2）翻訳　日本語の語を外国語に移す場合も、推測や確かさの度合いを保つ必要がある。

（3）イ　本文では、誤って書いた開店年を正しく直している。

（4）ア　発言には「たぶん」「思う」「全員に聞いたわけではない」という範囲がある。原稿は「みな」と言い切り、その範囲を変えている。

七　記述問題の考え方

（5）　推測を示す言葉を残す理由 45〜55 字

（5）解答例　52 字

店主は客全員に理由を聞いたのではなく、見た様子から想像しており、その考えを確かな事実として伝えないため。

（5）別解例　50 字

店主の答えは一部の客を見て考えた推測なので、客全員の理由を確認した事実であるかのように変えないため。

☆（5）自分で確かめる点

① 店主は、客全員に理由を聞いたわけではないことを示したか。

② 客の様子から考えた推測であることを示したか。

③ 言葉を消すと確かさや範囲が変わることを説明したか。

「元の発言を一字も変えてはいけないから」とはしない。意味や判断の範囲を保てば、言い方を整えることはできる。

（6）　原稿の修正と理由 70〜90 字

（6）解答例　81 字

店主は「たぶん、昔の音を聞きたいんだと思う」と話した、と直す。「みな」を外し、推測を示す表現を残すことで、話し手が客全員の理由を確認したかのように伝わるのを防ぐ。

（6）別解例　77 字

店主は、昔の音を聞きたくて時計を直す客もいるのだろうと考えている、と直す。話し手の推測を示す表現を残し、客全員に確かめた結果であるかのような断定を避ける。

☆（6）自分で確かめる点

①「表現」「話し手」を使い、修正例と理由の両方を書いたか。

② 客全員についての断定を外し、推測を示す言い方を残したか。

③ 元の発言にない、客の具体的な理由を加えていないか。

修正文は一つに決まらない。「みな」を外すだけでは、店主の推測が確定した事実のように読める場合があるため、確かさを示す言葉も見直す。